

12/17 金曜

常に満床 ■ 看護師不足 ■ 診察制限

コロナ第3波

1日の感染者数が連日2000人を超えて猛威を振るう新型コロナウイルスの「第3波」。大阪では非常事態を示す「赤信号」が点灯されるなど、各地で医療崩壊の危機が叫ばれます。医療現場では、「常に満床だ」「看護師が足りない」と限界を訴える声が上がります。「退院でベッドが空いてもすぐ次の患者が。いつも

「ぱいじゅぱいだ」。主に軽症の感染者を診る東京都杉並区の河北総合病院では、30床あるコロナ患者用病床がほぼ満床の状態が続きます。感染対策で病室を分けるため、実際は全体の2割に当たる76床分を割いており、設置数は限界。杉村洋一院長は「これ以上増えれば、入院を断らざるを得ずベッドが回転しない」と話します。

重症者のケアには通常の集中治療室の約4倍の人手が必要。スタッフ重症化した患者が移さ

れる拠点病院も迫切しています。東京医科歯科大病院(文京区)では、入院の長期化で8床ある重症者用ベッドが空かず、受け入れに支障が出ています。内田信一院長は「本来2週間程度で病状が改善するが、高齢者が増え、なかなか良くならずベッドが回転しない」と話します。

感染者の高止まりが続く北海道では、一般患者が増えた10~11月、病院への診察にも影響が出ています。クラスター(感染者集団)が発生した札幌市の病院では、感染し



血流などを良くするために、新型コロナウイルス感染症患者の姿勢を変える医師ら

(同病院提供、一部画像処理しています)

医療限界

た看護師らの離脱が相次ぎ、救急対応の制限や約2週間の外来診療休止を余儀なくされました。通

院患者には原則、対面診察を行わず、薬の処方箋だけ渡しています。コロナ病床も深刻で、担当者は「人繰りが厳しく、もう受け入れられない」と悲鳴を上げ、綱渡りが始まっています。

救急搬送も窮屈に。札幌市消防局では、感染者が増えた10~11月、病院3カ所以上から受け入れを断られた搬送患者が前年比以上の724人に上りました。